

高温・少雨に伴う農作業安全および農産物等の技術対策について

令和5年8月1日
福井県農業総合指導推進会議

〈農作業中の熱中症対策〉

下記の対策を行い、熱中症にならないよう注意しましょう。

（１）暑さを避ける

- ・高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所での作業を行う。

（２）こまめな水分補給と休憩

- ・喉の渇きを感じる前にこまめに水分・塩分を補給し、休憩をとる。

（３）単独作業は避ける

- ・作業は複数名で時間を決めて、連絡をとり合いながら行う。

（４）熱中症対策アイテムの活用

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服を着用したり、空調服や送風機を活用する。

〈技術対策〉

○水 稲

登熟向上、未熟粒の発生回避のため、収穫直前まで間断通水を実施する。高温多照年は成熟期が早まるため、積算気温を目安に籾水分を計測して適期に収穫し、刈遅れによる胴割粒の発生を防ぐ。

○大 豆

土壌の乾燥で粒の肥大が悪化するため、5～7日おきに畝間灌かん水する。かん水は一度に多くの水を入れるようにし、畝間に水が行き渡ったら暗渠を開け、余分な水は排出する。

○そ ば

土壌の乾燥で出芽率が低下するため、播種作業は天候の状況を確認しながら行うとともに、降雨がなければ小畝立て播種機は使用しない。

○野 菜

1 土壌水分保持対策

- （１）秋野菜の播種や定植前には充分かん水をしておき、播種や定植後も、夜間や早朝に充分かん水を行う。
- （２）敷きわらや地温抑制マルチを活用し、地表面からの蒸発を防止するとともに、地温の低下を図る。

2 高温障害防止対策

- (1) 施設栽培においては、妻面、側面、天窓を開放し換気を十分に行うとともに、遮光により施設内温度上昇を抑制する。
- (2) 葉茎菜類ではチップバーン防止のため、防除時にカルシウム剤を混用する。
- (3) 果菜類では、着果負担の軽減を図るため、不良果などを摘果し樹勢を維持する。また、下葉を取り除くなどして蒸散の抑制を行う。
- (4) トマトのホルモン処理は夕方温度が下がってから行い、3段花房以降はジベレリンを加用する。

3 病虫害防除

高温乾燥状態ではアブラムシ類、ハダニ類等の発生が多くなるので、発生状況をこまめに確認し、初期防除を徹底する。

○花 き

1 水管理、土壌水分保持対策

日中、葉がしおれ、朝夕でもしおれが回復しないようであれば、土壌がかなり乾いており、生育、開花および品質に悪影響を及ぼすので、次の対策を講じる。

(1) 水田花き

- ・かん水は地温が十分低下してから行う。

地温が高い時に行うと、かん水した水が熱くなり根を傷めるので、かん水は、十分に地温が低下した夜間に行い、できるだけ短時間のうちに終わるようにする。日の出前には終了するようにする。

(2) スイセン

- ・促成スイセンでは、遮光して気温 25℃を目安に気温・地温の低下に努める。なお、散水は極力、朝夕に行う。

(3) 施設花き

- ・施設栽培においては、妻面、側面、天窓を開放し換気を十分に行うとともに、遮光により施設内温度上昇を抑制する。
- ・敷きわらや地温抑制マルチを活用し、地表面からの蒸発を防止するとともに、地温の低下を図る。
- ・出荷が近いものでは、高温、かん水不足による品質低下を回避するため、日ざしが強い時間帯に遮光を行う。

2 高温対策

高温期に播種、定植するものは次のことに特に留意する。

- (1) 地温、気温の低下を図るため、定植日の5日程度前から定植後5日程度は遮光する。また、予めかん水し、定植時の土壌水分を十分に保つとともに、定植後のかん水を必ず行う。
- (2) 播種後の管理は雨よけ下で行い、遮光し、温度の低下を図る。播種箱は風通しの良いところで管理する。

3 病虫害防除

高温・乾燥によりダニ類、アブラムシ類、スリップス類の発生が多くなるので、発生状況をこまめに確認し、初期防除を徹底する。

○果 樹

1 土壌乾燥防止

草との土壌水分の競合を避けるため、果樹園の下草をていねいに刈り取り、刈り取った草は樹冠下に敷き土壌表面からの蒸散を防ぐ。

2 かん水

5日程度雨が降らない場合は、1回当たり20mm程度をかん水する。砂地など乾燥しやすい土壌の園地では、土壌の乾燥状況に合わせてかん水間隔を短くする。

また、幼木は根が少なく、乾燥に特に弱いので株元にたっぷりかん水する。

3 病虫害防除

ナシ、ブドウなどでは乾燥するとハダニの発生が多くなるので、発生状況を確認し防除する。

4 収穫

収穫期を迎えた品目では、果実温の低い早朝での収穫、選果等を徹底する。

○畜 産

1 畜舎管理

(1) 舎内の換気に気をつけ、送風機や換気扇の活用を図るとともに、状況に応じ、屋根や畜舎周辺への散水、屋根への石灰塗布、軒先等におけるスダレや寒冷紗の設置により舎内温度を下げる。

(2) 残飼の腐敗に注意し、除ふん、畜舎の清掃など環境の改善に努める。

2 乳牛、肉用牛

(1) 給飼は朝夕の涼しい時期に行い、嗜好性の高い良質の飼料給与に努める。

(2) こまめに給水器の点検を行い、冷水を十分に与える。状況に応じサプリメントなどを利用してバランスのとれたミネラルの補給やビタミン類の添加を行う。

3 豚、鶏

(1) 密飼いを避け、散水や噴霧により、畜舎内気温の低下や体温上昇の防止を図る。

(2) 油脂などの栄養価の高い飼料の給与やビタミン類の補給により、体力低下の防止に努める。

4 飼料作物

(1) 牧草類

牧草類については、降雨まで刈り取りを延期する等、株の枯死防止に努める。